

「妊娠管理における胎教」

越 野 立 夫 中 井 章 人

緒言

胎教は中国の皇帝学として始まり、妊娠中の生活に対する心構えとして、十世紀中頃に日本に伝搬された。以後、妊娠に関するいくつかの因習として、広く全国に広まった。そして、ここ数年再び胎教という言葉が取りざたされ話題になっている。それは幼児教育の発達、流行により、最も早期の教育と言った理解、あるいは育児を成功させるための一手段、即ち、胎内にいるころより子供に対する愛情を深めていくという考え方などがあるためと言われている。

しかし、実際の胎教は妊婦を取り巻く様々な生活環境に始まり、その妊婦の嗜好、性格、行動様式、家族関係、パートナーとの関係など多くの因子の中に存在し、一元的なアプローチは困難である。したがって、胎教について、明確な定義やその効果の科学的な評価は少ないのが現状である。各種刺激に対する胎児の短期的な反応や胎児の発育に関することは明らかになりつつあるが、胎教そのものの胎児、新生児への影響をはじめとする、長期的な影響は明らかではない。

そこで我々はまず、本年度に胎教に対する妊婦自身の意識調査を行い、その結果をふまえ、おそらく胎教の基本となるであろう胎内記憶 (Imprint) について基礎的な調査を行った。

1. アンケートによる意識調査

対象ならびに方法

胎教に対する妊婦の意識をアンケートにより調査した (表1)。

日本医科大学付属第一病院ならびに関連病院において妊娠管理中の妊婦1000人を対象に郵送ならびに面接によるアンケート調査を行った。

対象の年齢は19才から42才で平均27.8才、妊娠週数は9週から38週で平均24.6週、分娩歴は0から3回で平均0.33回、73.5%が専業主婦、20.9%がフルタイムで、5.5%がパートタイムで仕事をしていた。また、最終学歴は1.3%が大学院、23.4%が大学、24%が短大、19.5%が専門学校、31.2%が高校卒業であった。

結果

回答率は52.7%で、その結果、既に大部分 (98.7%) の妊婦が胎教という言葉を目にしており、その意識として、71.1%で胎教が必要であり、76.7%が新生児に影響を与えるものと考えていた。そして、その効果として、71.6%の妊婦が母児の絆を深める、31.3%が子供の人格形成に役立つ、1.1%が頭のよい子を作るものと認識していた (図1)。

また、97.7%の妊婦が胎児は外界からの刺激を感じると考え、ほぼ全例でなんらかの手段により胎児とコミュニケーションを持とうとしていた。その内実際に胎教と意識して取り組んでいる妊婦は62%で、その内訳は、声を出して話しかけるが71.5%、音楽を聞かせるが58.1%、唄を歌うが17.7%、本を読んで聞かせるが9.7%であった (図2)。一方、現在胎教に取り組んでいないもののうち、49.1%は今後、何らかの形で胎教を取り入れたいと考えていた。そして、76.3%で胎教に対し、

父親が必要と考えていた。

以上の結果、胎教に対する積極的な考え方は予想以上に現代の妊婦の意識に存在し、その意識に年齢、妊娠週数、妊娠回数、職業、学歴による差は認めなかった。

2 胎内記憶 (Imprint) についての基礎調査

前述のアンケートの結果より、比較的多くの妊婦が取り組みやすい音楽を選択し、胎内記憶の存在を検討すべく以下の調査を行った。

対象ならびに方法

対象は日本医科大学付属第一病院ならびに関連病院において妊娠管理、分娩を行った15組の母児で、表2に示した12種類の音楽テープ(一曲約5分)のうち2種類を妊婦が不快に思わないことを条件に任意に選択させた。一つを妊娠30週から35週に、他を妊娠36週以降に一日3回以上反復して聞くよう指示をした。なお、音量、聴取時間などに厳密な規定は設けなかった。そして、出生後一カ月目と二カ月目に全12曲をランダムに録音したテープ(60分)を一度だけ母児に聞かせ、各12曲に対する新生児の反応を母親の主観により判定した。新生児の反応は、にこにこする、喜ぶなど快の反応、泣き出す、嫌な顔をするなどの不快な反応、音に関心を持つが快・不快の判定が付かない不規則な反応、不応に分類した。

結果

生後一カ月目の結果では妊娠30~35週に聞いた曲に対し40% (6/15) が反応し、その内訳は不規則26.7% (4/15)、快13.3% (2/15) であった。また、36週以降に聞いた曲に対しては53.3% (8/15) で反応が見られ、その内訳は不規則46.7% (7/15)、快6.7% (1/15) であった。一方、妊娠中に聞かなかった曲に対し反応を示したものは35.9% (54/150) で、その内訳は不規則23.3% (35/150)、快7.3% (11/150)、不快5.3% (8/150) であった(図3)。

生後二カ月目の成績は妊娠30~35週に聞い

た曲に対し60% (9/15) が反応し、その内訳は不規則20% (3/15)、快26.7% (4/15)、不快13.3% (2/15) であった。また、36週以降に聞いた曲に対しては73.3% (11/15) が反応し、その内訳は不規則40% (6/15)、快33.3% (5/15) であった。一方、妊娠中に聞かなかった曲に対し反応を示したものは58% (87/150) で、その内訳は不規則30% (45/150)、快4% (6/150)、不快24% (36/150) であった(図4)。

即ち、妊娠中に聞いた曲と聞かなかった曲では、新生児の反応が異なり、聞いた曲に対し反応頻度が増加した。また、妊娠後期に聞いたものほど新生児期の反応が高率に出現する傾向を示した。さらにこれらへの反応は生後日数が進むほど明確になる傾向を示した。

まとめ

胎教についての意識調査ならびに胎内記憶 (Imprint) に対する基礎的な調査を行った。その結果、胎教に対する積極的な考え方は予想以上に存在し、多くの妊婦が何らかの手段によりその実践を試みていた。

また、胎教の科学的な根拠の一つとして、胎内記憶を取り上げ検討し、その存在を示唆した。しかし、今回の成績は母親の主観に依存するため、厳密な差の検定や有意性を評価するには至らなかった。

そこで、今年度得られた傾向を元に、次年度より、胎児、新生児の心拍モニターあるいは超音波観察等、より客観的な方法を用い、胎内記憶について検討を加え、妊娠管理における胎教の意義を位置づけたい。

表1 アンケート調査

当院で妊娠管理、分娩をされる方からアンケート調査を行っています。このアンケートは今後、約9カ月間の妊娠期間をより快適に過ごしていただくための資料とさせていただきます。

1. 胎教という言葉をご存じですか。 (①はい ②いいえ)
2. 胎教は必要とお考えですか。 (①はい ②いいえ ③どちらともいえない)
3. 胎教は産まれてくる赤ちゃんに影響を与えますか。
(①はい ②いいえ ③どちらともいえない)
4. 赤ちゃんはあなたの声や外界からの刺激(音や光や振動)を聞いたり感じたりしていると思いますか。
(①はい ②いいえ ③どちらともいえない)
5. 妊娠の診断をお受けになってからおなかの赤ちゃんに何か話しかけたり、コミュニケーションをお持ちになろうとしましたか。
(①声を出して話した ②声を出して触れた ③心の中で話しかけた ④いいえ)
6. 現在、赤ちゃんのために何かやっていることはありますか。(①ある ②ない)
①あるとお答えになった方に伺いますが、具体的にどんなことをおやりになっていますか。
(①話しかける ②本を読む: 題名または種類 _____)
(③唄を歌う: 曲目・種類 _____ ④音楽を聴く: 種類 _____)
(⑤その他... _____)
- ②ないとお答えになった方に伺いますが、今後、赤ちゃんのために何かおやりになる考えはありますか。 (①ある…具体例 _____) (②ない)
7. 胎教に父親は必要ですか。 (①はい ②いいえ ③どちらともいえない)
8. 胎教をどのようにお考えですか。(①母児の絆が深まる ②頭のよい子ができる)
(③子供の人格形成に役立つ ④効果は期待 できない)

胎教について、何かご自身のお考えがあればお聞かせください。

9. 分娩予定日、妊娠週数を教えてください。また、第何子の赤ちゃんですか。
(予定日 ___月___日、妊娠週数 ___週 ___日、第 ___子)

お名前 _____ 年齢 _____ 才 記入日 ___月___日

(①専業主婦 ②フルタイムで仕事をしている ③パートタイムで仕事をしている)

(①大学院 ②4年制大学 ③短期大学 ④専門学校 ⑤高校 ⑥中学) 卒業

ご協力ありがとうございました。日本医科大学付属第一病院産婦人科

表2 調査に用いた12曲

- | | |
|----------|---|
| ①俳句 | 四季のうた 12編 |
| ②英語、早口言葉 | Betty botter, Peter piper Picked a Peck |
| ③ラテン語、散文 | Somnium scipionis より Capita I-VI |
| ④英語、聖書 | St. Luke Ch2 vv1-20,25-35,40-52 |
| ⑤日本語、物語 | 象さんの長い鼻 |
| ⑥英語、物語 | Winnie The Pooh より Chapter Ten |
| ⑦ピアノ曲 | Chopin作曲ETUDES 変イ長調NO10、変ニ長調NO8 |
| ⑧ワルツ | Johann Strauss II 作曲入り江のワルツ |
| ⑨長唄 | 吾妻八景 |
| ⑩英語、歌 | Corner of the sky |
| ⑪独語、歌 | Johann Strauss II 作曲こうもり第2幕より |
| ⑫仏語、歌 | Les Enfants de Noel |

図1 胎数の効果に対する考え方

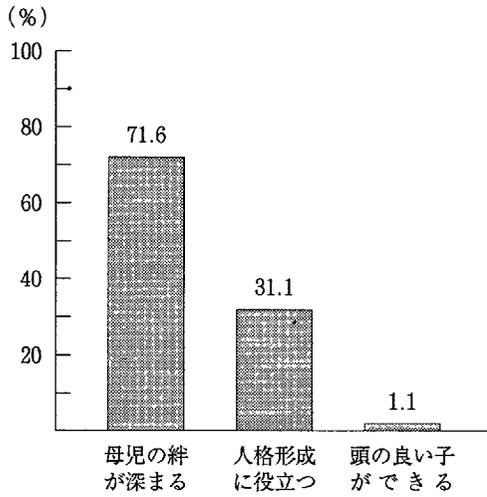


図2 胎数と意識し行っていること (n=327)

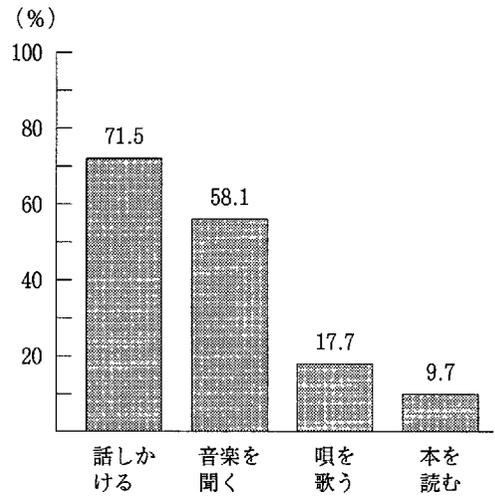


図3 生後1ヵ月目の調査

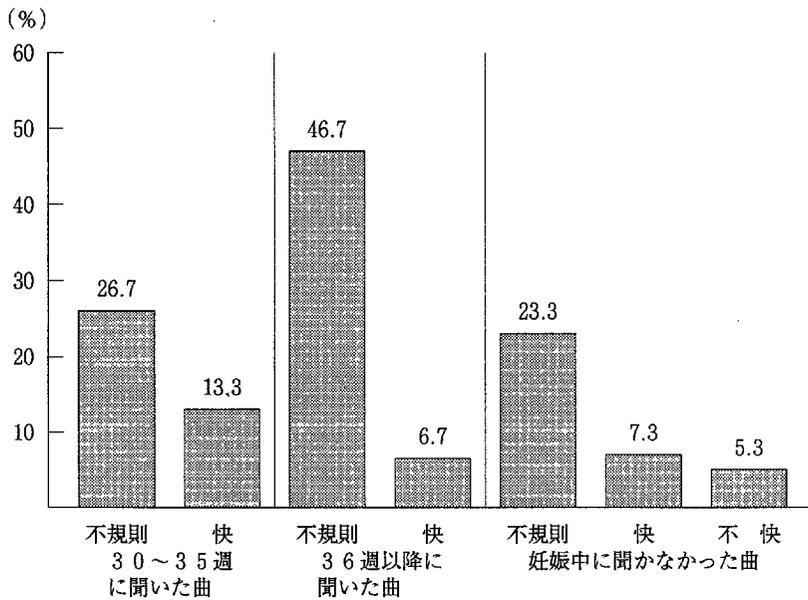
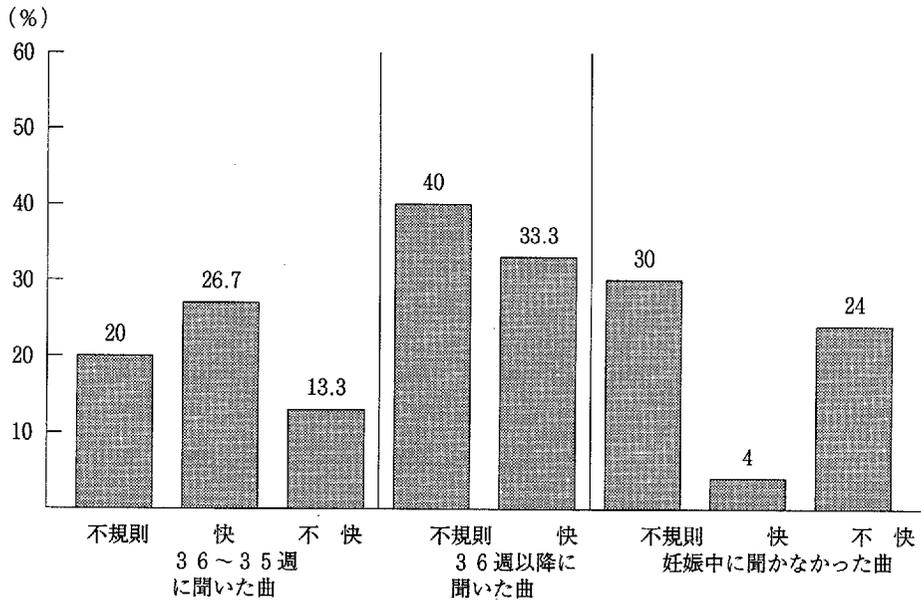


図4 生後2ヵ月目の調査





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



緒言

胎教は中国の皇帝学として始まり、妊娠中の生活に対する心構えとして、十世紀中頃に日本に伝搬された。以後、妊娠に関するいくつかの因習として、広く全国に広まった。そして、ここ数年再び胎教という言葉が取りざたされ話題になっている。それは幼児教育の発達、流行により、最も早期の教育と言った理解、あるいは育児を成功させるための一手段、即ち、胎内にいるころより子供に対する愛情を深めていくという考え方などがあるためとされている。

しかし、実際の胎教は妊婦を取り巻く様々な生活環境に始まり、その妊婦の嗜好、性格、行動様式、家族関係、パートナーとの関係など多くの因子の中に存在し、一元的なアプローチは困難である。したがって、胎教について、明確な定義やその効果の科学的な評価は少ないのが現状である。各種刺激に対する胎児の短期的な反応や胎児の発育に関することは明らかになりつつあるが、胎教そのものの胎児、新生児への影響をはじめとする、長期的な影響は明らかではない。

そこで我々はまず、本年度に胎教に対する妊婦自身の意識調査を行い、その結果をふまえ、おそらく胎教の基本となるであろう胎内記憶(Imprint)について基礎的な調査を行った。

1. アンケートによる意識調査

対象ならびに方法

胎教に対する妊婦の意識をアンケートにより調査した。

日本医科大学付属第一病院ならびに関連病院において妊娠管理中の妊婦 1000 人を対象に郵送ならびに面接によるアンケート調査を行った。

対象の年齢は 19 才から 42 才で平均 27.8 才、妊娠週数は 9 週から 38 週で平均 24.6 週、分娩歴は 0 から 3 回で平均 0.33 回、73.5%が専業主婦、20.9%がフルタイムで、5.5%がパートタイムで仕事を行っていた。また、最終学歴は 1.3%が大学院、23.4%が大学、24%が短大、19.5%が専門学校、31.2%が高校卒業であった。